

第1章

快適に暮らすためのエクステリア

はじめに 2

- 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
- エクステリアとは 8
- エクステリアを3つに分類すると 9
- ファサード空間 ●エンジョイライフ空間 ●サービス空間
- これから家を建てる人に 12
- 建物の内と外の配分
- ファサードを変えてみる 16
- もう家を建ててしまった人に 19
- 色彩計画で明るく快適さを ●広い家は維持が大変 ●減築して庭をつくる ●根強いガーデニング指向
- 未来型エクステリア 24
- 地域のコミュニケーションを考える ●高齢者も近隣のコミュニケーションを要求
- 近隣のコミュニケーションを助けるエクステリアづくり ●話題を提供するエクステリア
- 環境緑化の効果 29
- 地球は怒っているのではないか ●地球だって優しくして欲しい ●小さな優しさを集めよう
- 快適性は五感で感じる ●せせらぎとオレンジの香り
- まず敷地にゾーニングする―内と外の相関関係をポイントに 34
- 構造・エクステリア・インテリアをトータルで考えよう 36
- 住環境の質を高めるために 38
- 総工事費の1割はエクステリア用 ●心を込める―エネルギーを注ぐこと

第2章

ファサード空間をつくる

- 11 ●1代しか使わないものをつくらない
敷地条件別エクステリアづくりのポイント 41
- 都市型エクステリア計画のポイント ●近郊型エクステリア計画のポイント
●郊外型エクステリア計画のポイント
- 12 ●エクステリアの工事はどこへ頼めばよいのだろう―素朴な質問 53
●専門職人をコーディネートする ●計画・設計・工事をコーディネートする
- 1 ●外観を美しくすることは義務―家を中心に道路の展開図を描く 58
●どう見せるか―自分の意志を決める 60
- 2 ●魅力的な門の構え方 62
- 3 ●門のデザイン ●門廻りの寸法 ●門を構える位置と向き ●門の力ギ
●これだけは欲しいアプローチの基本と手法 66
- 4 ●アプローチを玄関の正面から外す ●なるべく長く歩かせる ●視線を楽ませる
●内部のプライバシーと安全確保 ●幅は1.5人+ゆとりを ●足元の安全性
- 5 ●高齢化を視野に入れたエクステリア 70
- 6 ●バリアフリーはエクステリアにも ●道路から玄関まで
●ポーチとは屋根付き出入り口のこと 76
- 7 ●デザインのポイントは屋根とドア、住まい全体の統一性
●ポーチ廻りに欲しい心づかい 78

- 8 ●荷物の置き台をつくる ●玄関外に傘立てを ●狭いポーチには洋風引戸を ●照明は手元、足元
街を魅力的にする塀・フェンス・生け垣 80
- 9 ●魅力的な生け垣のデザイン ●既製品を使って魅力的なデザインをする ●通る人、見る人を楽しませる塀をつくる
●囲う塀、見せる塀 ●隣家との目隠し ●高さを変えて確保する景観とプライバシー ●塀の安全性の問題
内側から見た塀のデザイン 90
- 10 ●塀のデザインが庭の魅力をつくる
安心して住める街をつくるエクステリア 92
- 11 ●防犯 ●チラチラ明かりの見える塀 ●不審者が入ったことが外から見える・分かる
●防犯対策を視野に入れる ●家の廻りの安全性を災害時の目でチェック
●安全性とメンテナンス ●デザインとメンテナンス
表札―住む人のイメージ演出 98
- 12 ●ポスト 100
- 13 ●ポストの寸法は大きめに ●ポストの取り付け場所
カーポートをつくる場所 102
- 14 ●濡れない、近いが第一条件 ●室内との関係をよく検討する
駐車スペースと外観―カーポートが美観を損ねている 104
- 15 ●パーキングスペース 106
- 16 ●広さ ●必要最小スペースは試して知る
2台目の駐車場を確保する 108
- 17 ●良い外観をつくるのはフォルム 110
- 18 ●バランスの良いこと ●凹凸を付けたら、「額縁効果」も
道行く人にも楽しんでもらう外廻りの花壇 112
- 敷地の廻りにおしゃれなリボン花壇

第3章

エンジョイライフ空間をつくる

プラン集

フロントヤード 114
 アプローチとポーチ 119
 カーポート 125

8	庭木選びの成功のカギ 164
7	●四季を楽しむ花壇プラン 春・夏・秋・冬のバリエーション
6	花壇のサイズは小さめに 154
5	●日当たりと排水を良くする ●掘も庭木も低めに 芝生は張りますか? 152
4	●バスコート ●光庭―光を取り込むための小庭
3	小さな庭―ゆとりの空間には手間とお金をかけて 150
2	●ウォールガーデンなら狭くても楽しめる ●石と植物 ロックガーデン ●階段をつくる ●ひとり時間のためのコーナーガーデン ●健康維持とリハビリのできる庭 ●植物主役の庭から植物アクセントの庭へ ●狭い庭を広く見せる ●物語性のある庭
1	形式別庭園の特徴 130 ●イタリア式庭園 ●フランス式庭園 ●イギリス式庭園 ●スペイン式庭園 ●中国式庭園 ●日本庭園 庭の考え方あれこれ 137

第4章

サービスヤード空間をつくる

- 9 癒し系の庭木に人気 166
- 人気の変化
 - 爽やか、柔らか、すがすがしさが人気に
- 10 小庭園には敬遠したい大きな木 171
- 11 手入れのしやすい中木や低木 172
- 12 北庭を楽しむ 173
- 13 戸外室として使われるバルコニー・ベランダ・テラス・ポーチの違いは何か 174
- 14 光と風と緑のある生活をーテラスとバルコニーでの食事 175
- テラス、ベランダの設計
- プラン集
ガーデンライフ 177
- 1 サービスヤード 184
- 美しさと快適性が欲しい
 - メインガーデンよりサービスヤードを
- 2 屋根付きの庭として 188
- ペットや植物の避難場所
 - 台所を補助する
- 3 駐輪場をつくる 190
- 半地下、屋上緑化の駐輪スペース
- 4 物干し 192
- 敷地が南入りの場合
- 5 ふとんを干す 194

第6章

設備計画とメンテナンス

- 9 ●木でつくる ●石を使う ●レンガを積んでつくる ●コンクリートブロックを積む ●コンクリートでつくる
窓辺を飾る 226
- 10 屋根の持つエクステリア性 228
- 11 屋根のデザインは、まず本来の役割を忘れないで 230
- 12 屋根の材料 232
- 13 ●デザインが先か、材質が先か ●条件と材料の組み合わせ
庇 234
- 14 ●庇の役割 ●庇をつくる
緑の日陰をつくるパーゴラ 236
- 1 ●エクステリアにも設備空間を忘れないで！ 240
- 2 ●ゆとりをもった設備代(しろ) ●使う場所の近くに設置するのが原則
技術の進歩目覚ましい照明設備 242
- 3 ●発光ダイオード ●配線の不要なソーラー製品 ●照明で防犯 ●照明器具のタイプ ●照明ランプの実例
敷地内の埋設物 248
- 4 ●どこに埋まっているか知っておこう
排気はおいと音に気を付けて 249
- 5 屋外設備としてのコンセント・散水栓・メーターボックス 250
- コンセントは防水タイプを ●散水栓 ●メーターボックスの取り付け位置はプライバシーと美観を考慮して

はじめに

3月の声を聞くと、桜便りがあちこちで聞かれます。最近の桜情報を見ると、おや！こんなところにも…と思うほど身近な場所でお花見ができることに気付かされます。ソメイヨシノの寿命は70〜80年といわれていますから、戦後焦土と化した街をよみがえらせようと、みんなが花よ、樹木よと植えたものが、ちょうど成熟してきたのではないかと思います。

わが家の庭で育てている西洋シャクナゲが、12年たつて今年4つの花を付けました。初めて花を付けたのは2年前で10年たつてやっと土地になじんだということなのでしょう。ブロックの塀の緑化はプーミラを使っていますが、こちらでも12年でやっと半分緑になりました。植物がその土地になじみ、新たな環境を構築するには、ゆっくりとした時間がかかるものだと、これを見てしみじみ思うのです。

イギリスの有名なイングリッシュガーデンもその歴史を読んでみると、30年、50年という年月をかけて今日の美しさを完成させていることが分かります。完成に時間がかかることを知っているから、イギリスでは古い物を大切にするのだろうと納得しているのですが、私たちは焦土のゼロから出発し、何でも新しくつくってきた経験があるために、古いものを大切にすることを忘れさせられたのかもしれない。

通勤路に1mくらい道路から宅地が高くなっているお宅があり、大きな自然石を2段積みにした土留めは隙間から花が咲いていたりするのですが、だいぶ歪んでいて、地震があったら崩れてきそうな危うさがあります。しかし、かっちりとしたタイルの塀やブロックの塀の多い街並みの中で、ここだけは優しい時代の流れを感じさせてくれるのです。これを見ると、イギリスの詩人ウイリアム・モリスが世界一美しい街といったという、コッツウォルズ・バイブリーの歴史を感じさせる建物の古びた姿を思い出

●はじめに

し、なかなか良いものだと思います。きっとこの住人は、安全な擁壁につくり直さなくてはと考えていると思いますが、この雰囲気を残したまま安全にできる改修法を提案してあげたいと思っています。新しいものだけが美しいわけではありません。新しいものはなじみがない分、冷たさが先行しがちで、ほっとする温かさや美しさのうちだなと思います。

わが家の庭は、少し油断していると猛烈な勢いで繁殖してしまう芝生の雑草に困り果て、芝生を減らすために大きなデッキとレンガを張って、アウトドア・リビングを実現したものでした。これで快適性のキーワードともいえる「光」と「緑」と「風」の中での生活時間が日常の暮らしの中に入ってきたのです。その後、家の改築を機に、和室の前の日当たりの悪い部分を和風の庭につくり直しました。石と流れをあしらい、日陰でも安定しているグランドカバーにしたことで一段と手入れが楽になりました。それから15年たつて、リビングデッキも腐った部分が増えてきたので、一部を残して取り壊しました。次の改修案が決まらないまま春を迎えることになりそうになったので、慌ててチューリップの芽だし球根を20球ほど仕入れ、にわかづくりの花壇をつくりました。4月になって次々と花が咲き、食事をしながら楽しみましたが、これは相当至福のときを与えてくれました。

生き物である植物中心の庭を快適な生活空間としていくには、日々の手入れや気配りが大切で、手が回りかねていると、すぐ雑草が伸び放題になってしまいます。庭の設計をしていると、多くの依頼者から維持管理の軽減を要求されますし、実際外廻りを美しく保つのは大変です。特に、庭木や草花の手入れを減らしたいという希望は多く聞かれます。自分の力で維持管理できるような庭のつくり方を工夫す

るといのが、気持ち良い住まいづくりには欠かせないと思うのです。

けれども、季節ごとの花の楽しみは格別だと、今年のチューリップ花壇が教えてくれました。手入れは大変でもやっぱり花のある暮らしを考えようかと思っているこの頃です。

黒地に白い花瓶が描かれている絵があります。この絵は両側から向き合った2人の横顔だといわれてみると、花瓶は消えてしまいます。これを心理学では「図と地の現象」と呼ぶのだそうですが、建築評論家の松葉一清氏が、この「図と地」を使って都市環境における建築と公共空間である道路のデザインの問題を論じておられました。建築家にとっては、都市の景観を構成する「図」は、当然、建築そのもので、「地」は建築物の建っていない余地のこと。建築家は営々として都市の中に「図」を回復する努力を続けてきましたが、これからの日本の都市では、「地」をどうデザインしていくかが課題だとおっしゃっています。

しかし、都市計画とか道路計画といった立場の人にとっては、道路とか公園といった公共的な空間そのものが「図」であって、それ以外は建築を含めて「地」ということになるのではないのでしょうか。住宅についても、建築家は家を「図」と見て、家を取り囲む住環境を「地」と見ることが多いでしょうし、造園家は庭を「図」と見て、建物やその他の空間は「地」として意識されることが多いでしょう。何を



E. ルビンの「図と地の反転図形」

●はじめに

「図」や「地」と見るかは、人それぞれの立場や関心事によって違ってきます。

しかし、住まいを考えるときに、家とエクステリアが別々に考えられ、この「図と地の関係」であり続けることでよいのでしょうか。

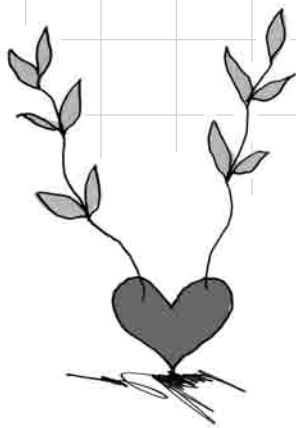
「住まい」とは、建物を支える躯体にまつわるインテリアとエクステリアの空間全体のことです。それは、道路を通して社会とつながっていき、街をつくり、都市を構成していきます。良い住まいは、良い街、良い都市の中にあつてこそ引き立つものですし、良い住まいが集まってこそ、良い街、良い都市ができるのではないのでしょうか。家とエクステリアはどちらが「図」で、どちらが「地」だといった関係ではなく、一体のものとして考えることが大切だと思うのです。

「快適な住まいを！」というのが私が常に追求しているテーマです。このことを、考えながら歩き、歩いてから考えたりしながらたどりついた、現在までの私の結論をまとめてみたのがこの書です。どんな住まいをつくったらよいかという、読者の方の質問には、具体的な解答にはならないかもしれませんが、しかし、住まわれる皆さんが、ご自分の感じる快適性や価値観に従いながら、かつ社会とのつながりを忘れない住まいづくりをしていただきたいというのが私の願いです。

一人一人が大切に考えていかなければならない住環境を考えていくための手がかりとして、自分の住まいを通して、個人から社会へどう働きかけていくかを、一緒に考えていただくためのキッカケになれば幸いです、思っております。

第1章

快適に暮らすためのエクステリア



1 エクステリアとは

インテリアの対語として使われている、エクステリアという言葉聞いて、具体的に思いつかべることはどんなことでしょうか。

門、塀、庭という答えが圧倒的に多いと思います。

決して間違えているわけではありませんが、それだけではありません。

インテリアが、床、壁、天井、家具調度品や照明器具などによって構成された室内空間を指しているのと同じように、エクステリアも私たちが取り囲む外部空間を指しています。

外部空間というと、際限なく広がってしまいがちですが、住まいのエクステリアという場合、住宅が建っている敷地全体の中から、インテリアの部分だけを取り去ったものと考えればよい

でしょう。

ホオズキの実を例にしてみると、あの赤い実の皮の内側と、中身の白い種を含んだ果肉がインテリアで、実の表皮とそれを包んでいる外皮ですが、エクステリアだといったら、わかりやすいかもしれません。

この本の中では、門、塀、アプローチ、バルコニー、庭といった、建物を除いた外部空間やそれを構成する工作物のほか、建物の外壁や窓なども含めてエクステリアとしました。

しかし、部屋の窓を通して見る庭は、インテリアにもなりますし、外側から、窓越しに見える建物の内部は、エクステリアの構成要素になる場合もあります。

●第1章 快適に暮らすためのエクステリア

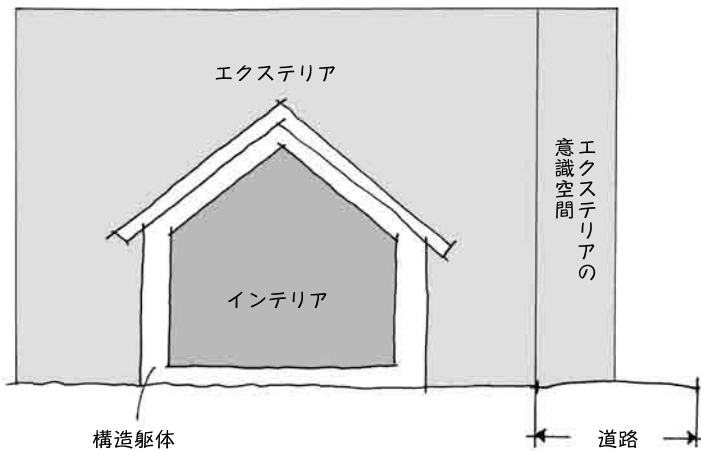
2 エクステリアを3つに分類すると

門も塀もテラスも「エクステリア」と、ひと
言で片付けていますが、インテリアが、居間の
インテリア、食堂のインテリアと、それぞれの
部屋の機能に分けて語られるのと同じように、
エクステリアも外部空間の使い方によって、い
ろいろな使い方が語られるべきでしょう。

アウトドア・リビングとして使うのか、アプ
ローチ空間として使うのかによって、エクステ
リアの構成は異なってきます。

まずエクステリア空間を、使い方によって次
の3つに分類してみました。

- ・住まいと街をつなぐエクステリア
- ・生活を楽しむエクステリア
- ・住まいの機能を支えるエクステリア



魅せるエクステリア&ガーデン

●ファサード空間

住まいと街をつなぐエクステリアは、ファサード空間といえます。

ファサードとは、英語のフェイスと同義語と考えてよく、顔・正面・外観という意味をもっています。建築用語でファサードは、建物の正面という意味で使われていますが、ここでは、もう少しふくらませて、単に建物の正立面だけではなく、外部に向けた顔をもつエクステリア空間を指したいと思います。エクステリア空間を構成するものは、門、塀、アプローチ、庇（ひさし）、ドア、植え込みなどのほか、とても重要なものに建物の外観が挙げられます。

ファサード空間の機能は、道路から玄関までの社会的外部空間から私的空間への導入空間と、住み手が社会へどう接しているかという意志を表現することです。

●エンジョイライフ空間

生活を楽しむエクステリアをエンジョイライフ空間と名付けました。

戸外の生活空間には、室内では得にくい思い切った意外性を求めることが可能です。

週休2日とか、大型連休が増えていく時代に、余暇の過ごし方も変わってくるでしょう。

いつまでも若いときのように、海だ、山だ、海外旅行だと、消費的レジャーで過ごすわけにもいかなくなるはずで、日常的な余暇のあり方となれば、わが家のエンジョイライフ空間の充実が基本となります。

建ぺい率50%の宅地なら建物以外の空間は、敷地の半分もあるのです。これをいかに使うかは、あなたの生活の快適性を大きく左右するはずで、

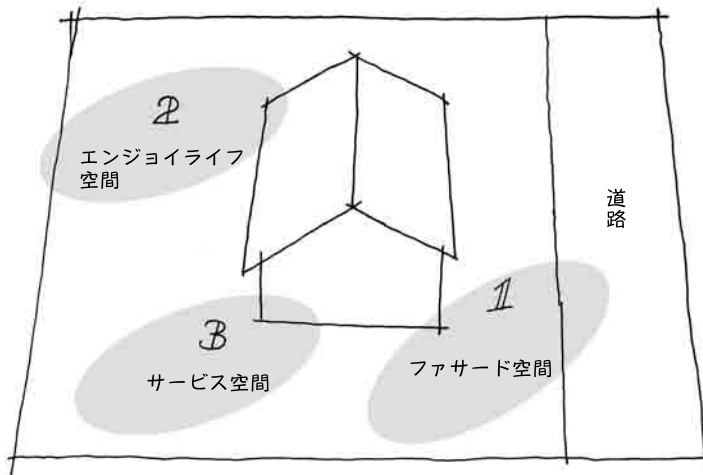
●第1章 快適に暮らすためのエクステリア

●サービス空間

住まいの機能を支えるエクステリアです。

カーポート、物置などの外部収納、日曜大工や雨の日の物干し場、家の中に入れたくない漬物樽や泥付き野菜、ペットの小屋、浄化槽、ボイラーの設置場所など、いろいろな機能が要求され、内部空間と外部空間の間にあつて、内部空間の生活を支えてくれるといった使い方がなされます。

住宅のプランニングをするときに、以上の3つのエクステリアの機能を、内部空間と合わせて、有機的に考えていくことが、家庭的にはもちろんですが、特に忘れられている社会的住環境の向上のために大切だと思います。

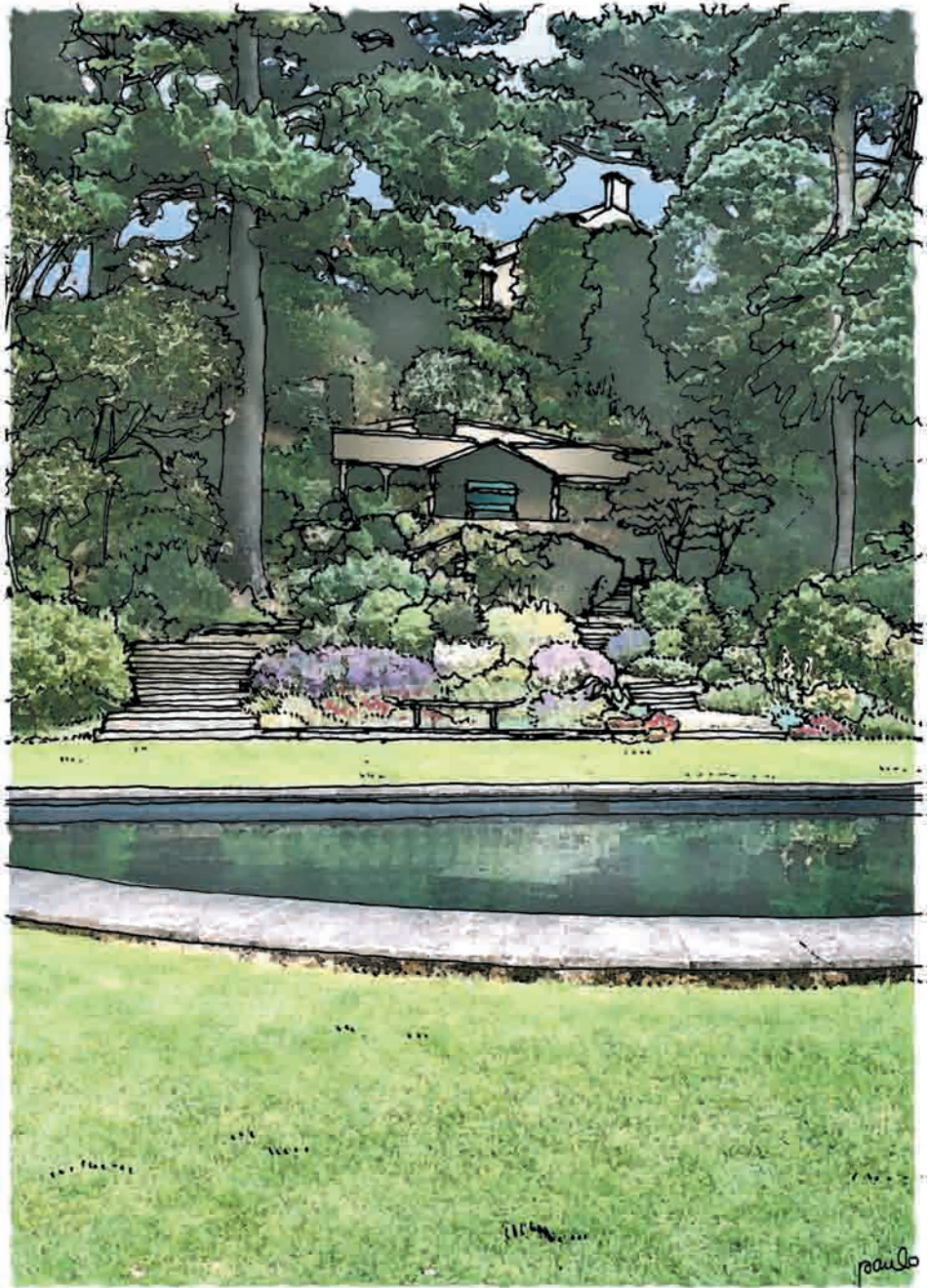


魅せるエクステリア&ガーデン



スノーヒルマナーガーデン

果樹園に沿った坂を登り、館へ至る。ここは敷地の中で一番高くなっている。石の階段を降りながら、三層のテラス状のガーデンを楽しむ。それぞれのテラスごとに、趣のある池や納屋があり、ピンク、白、紫のショウメイギクが咲き乱れている。つくり過ぎない自然さが人の心を癒してくれるような庭である。



キフツゲートコートガーデン

土地の高低差を利用した、立体的庭園。敷地の上段は、住まいと花の庭。下段は半円形の池のあるローンガーデン。花の庭とローンガーデンは、林の中のロックガーデンでつながれている。ロックガーデンの中腹には大きなあずまやがあり、はるかかなたの牧草丘陵への眺望が続いている。



スペインコルドバのユダヤ街のパティオ

パティオを囲んだ小さな集合住宅になっている。白い壁に花を飾って、美しさをきそう祭りがある。パティオの中には、井戸があったり祭壇があったり、それぞれの個性を楽しんでいる。

間口3m程の細長い庭。 →
 塀、バーベキュー炉、フラワー
 ボックスをレンガで統一。
 コッツウォールズストーンの
 明るいテラスがレンガの壁を
 引き立てている。

(設計・著者)



枕木横積みの塀。
 パーゴラの門にたくさんの種類の
 草花が絡みつき、寄り添い、
 都会の中で、緑あふれる
 フロントヤードをつくっている。

(設計・著者)

